



◀ 広報紙がスマホで読めます(10言語対応)



認知症になってもできることはたくさん つなごう、仲間と

市には、認知症の人や家族、地域で支える皆さんなどが気軽に集まって交流できる「認知症カフェ」や「若年性認知症の人の集いの場」があります。
 圏地域包括ケア推進課 ☎504-2648、☎504-2136



■9月は「世界アルツハイマー月間」です
 認知症に関する理解を深めましょう

データ 市の認知症の人の現状
 (令和2年9月現在)

要介護認定を受けている、認知症高齢者は約3万5000人、65歳未満で認知症を発症した若年性認知症の人は約450人

寄り添う仲間と集う場所

西区にある「TANTANの家」は、古民家を改装した飲食店の店休日を利用して、月に一度、若年性認知症の人やその家族、支援するボランティアなどが集まり、おしゃべりや季節のイベントなどを楽しむ場です(上写真)。

外出や交流を楽しみたい

当初から参加する松田さん(仮名)が、若年性認知症と診断されたのは2年前。病気による脳の血流の悪化が原因でした。介助する家族は「最初はどちらがいいのか分からなくて不安でした。区の認知症地域支援推進員に相談した日がちょうどTANTANの家のオープン前日で、明

日からいらっしやいと笑顔を向けられた時はほんと安心しました」と振り返ります。

松田さんは「ここに来ると、仲間といろいろなことにチャレンジできる。これからも交流や外出を楽しみたいです」とほほ笑みます。

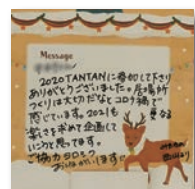
「仲間」を感じる楽しさ、充実感をたくさん味わって

運営する市在宅生活継続支援事業(西区)相談支援員で介護士の西山美雪さん(右写真)は「若年性認知症の人の、診断後の不安な気持ちを少しでも和らげるため、『思いに寄り添える仲間づくり』を目指しています」



と開設を決めた時からの変わらぬ思いを語ります。

「居場所で『仲間』を感じる楽しさや充実感をたくさん味わってほしいです。一緒に『やりたいこと』『できること』を楽しみましょう」と西山さん。共に過ごす時間以外にも、手書きの暑中見舞いやクリスマスカード(右写真)のやりとりなどを通じて心のつながりを大切にしています。



集いの場をもっと増やして安心を広げていきます

認知症地域支援推進員は、若年性認知症に関する相談や地域における認知症に関する医療・介護の

連携体制づくりなどを行っています。

西区認知症地域支援推進員の古味佳子さん(右写真)は「市内の認知症カフェは増えてきていますが、若年性認知症の人の集いの場はまだ少ないため、今後さらに広まっていくよう支援していきたいですね。集いの場への参加に関心のある人は、認知症地域支援推進員までご相談ください」と話します。



認知症に関することは、お近くの地域包括支援センターにご相談ください。同センターの問い合わせ先は市ホームページで。

市HP ページ番号 792

